

第52回 【令和8年度】 自衛消防隊操法競技大会 プログラム



各事業所で避難訓練・消防用設備等
の点検を実施しましょう！

勝山市防火管理研究協議会

第 52 回

自 衛 消 防 隊 操 法 競 技 大 会

と き 令和 8 年 1 0 月 3 日 (土) 午前 9 時より
ところ 平泉寺町岩ヶ野 九頭竜ワークショップ

次 第

1. 開会式

午前 9 時より

- | | |
|---------------|--------------------|
| (1) 開式通告 | 司会者 (社会福祉法人 勝山福社会) |
| (2) 開会のことば | 会 長 (株式会社 ラコーム) |
| (3) 優良防火管理者表彰 | |
| (4) 祝 辞 | 市 長 |
| (5) 来賓紹介 | |
| (6) 祝電披露 | |
| (7) 競技上の注意 | 審査長 (株式会社 フクタカ) |
| (8) 閉式通告 | 司会者 (社会福祉法人 勝山福社会) |

2. 競 技

競技開始

午前 9 時 3 0 分より

3. 閉会式

午後 1 2 時 3 0 分より

- | | |
|---------------|-----------------------|
| (1) 開式通告 | 司会者 (社会福祉法人 勝山福社会) |
| (2) 成績発表 | 〃 |
| (3) 優勝杯・次勝楯授与 | 会 長 (株式会社 ラコーム) |
| (4) 特別賞授与 | 消防長 |
| (5) 講 評 | 〃 |
| (6) 閉式通告 | 副会長 (大阪特殊合金株式会社 勝山工場) |

競 技 大 会 役 員 名

大 会 長	勝山市防火管理研究協議会会長 株式会社 ラコーム		
大会副会長	勝山市防火管理研究協議会副会長 大阪特殊合金株式会社 勝山工場		
審 査 長	株式会社 フクタカ		
審 査 員	動作審査	消防職員	
	計時審査	(第一部・第二部)	
		① 医療法人 たけとう病院	
		② 東急リゾーツ&ステイ(株)	
		(危険物消火の部・男子)	
		① 松文産業株式会社	
		② 白木興業株式会社	
		(危険物消火の部・女子)	
		① 社会福祉法人 大日園	
		② 特別養護老人ホーム さつき苑	
各 係	進行係	(司会者)	社会福祉法人 勝山福祉会
	競技係	(第一部・第二部)	ケイテー株式会社
	繰出係	(第一部・第二部)	勝山ファーマ(株) 勝山工場
		(危険物消火の部)	株式会社 ニットク
	器具審査係	(第一部・第二部)	セーレン(株)勝山工場
		(危険物消火の部)	北陸三共生興株式会社
	標的・シート係		株式会社 野田電機 勝山工場
	記録係		株式会社 一本義 久保本店
			福井勝山総合病院
	接待係		九頭竜ワークショップ

目 次

競技大会次第		1
競技大会役員名		2
自衛消防隊操法競技大会実施要綱		3～10
競技会場図		11
小型ポンプ操法実施要領		12～20
消火栓操法実施要領		21～26
屋内消火栓操法実施要領		27～31
危険物初期消火競技要領. 基準. 配置図		32～33
小型ポンプ操法審査表		34～38
消火栓操法審査表		39～42
屋内消火栓操法審査表		43～45
危険物初期消火審査表		46

自衛消防隊操法競技大会実施要綱

1. 目 的

自衛消防隊の消防操法技術の向上と士気の高揚を図り、自衛消防活動の充実並びに初期消火体制の確立を図るとともに防火意識を喚起することを目的とする。

2. 日時

令和8年10月3日（土） 午前9時より

3. 場所

平泉寺町岩ヶ野 九頭竜ワークショップ グラウンド

4. 主催

勝山市防火管理研究協議会

5. 参加団体

勝山市防火管理研究協議会加入事業所 （19事業所）

6. 競技種目

（1）第一部 小型動力ポンプ操法

（2）第二部 消火栓操法（男子）

〃 屋内消火栓操法（女子）

（3）危険物初期消火競技

7. 操法実施について

消防操法実施要領による。

消防操法実施要領

消防操法の基準（昭和47年5月11日消防庁告示第2号）並びに「消防訓練礼式の基準」（昭和40年7月31日消防庁告示第1号）に基づき、次の要領で行なう。

【第一部・第二部】

I 実施要領

1. 競技種目並びにチーム編成

- | | | |
|---------|-------------|----|
| (1) 第一部 | 小型動力ポンプ操法 | 5名 |
| (2) 第二部 | 消火栓操法（男子） | 4名 |
| (3) 〃 | 屋内消火栓操法（女子） | 3名 |

2. 操法に使用する機械器具

(1) 小型動力ポンプ

小型動力ポンプ及び吸管等、使用する器具は出場チームのものを使用する。

(2) ホース

- | | |
|-------------|--------------------|
| 小型動力ポンプ操法 | 口径 65 mm×20m×3 本 |
| 消火栓操法（男子） | 口径 65 mm×20m×2 本 |
| 屋内消火栓操法（女子） | 口径 40 mm×15m以上×2 本 |

(3) 筒 先

- | | | |
|-------------|-------|-------------------|
| 小型動力ポンプ操法 | 17 mm | } ただし、筒先は事務局が準備する |
| 消火栓操法（男子） | 17 mm | |
| 屋内消火栓操法（女子） | 13 mm | |

3. 水利の種類

- (1) 小型ポンプ……簡易防火水槽
- (2) 消火栓操法……消防車より消火栓BOXに中継送水
- (3) 屋内消火栓……消防車より消火栓BOXに中継送水

4. 火点の標示

標的をもって標示する。（2箇所）

5. 機械器具及び水利等の位置

各操法配置図のとおりとする。

6. 服装等

消火活動に適した服装とし、運動靴又は長靴、ヘルメット又は略帽等並びに手袋を使用し、指揮者以下統一した服装とする。

7. 操法競技実施要領

各操法競技実施要領に基づき実施するものとする。

II 操法の進行等について

1. 操法進行の合図

(1) 「操法開始」……………白 旗（横⇒上に）

(2) 「放水中止」……………赤 旗（横⇒下に）

2. 操法開始要領

(1) 隊員は、事前に「整列休め」の姿勢で待機する。

(2) 係員の白旗の「操法開始」の合図で操法を開始する。

3. 報告要領（操法開始時）

指揮者は、指揮位置で点呼をとった後、審査長に対し「〇〇会社自衛消防隊、ただ今から〇〇操法を開始します。」と報告する。

4. 退場要領

指揮者の「わかれ」の号令により解散したならば、使用器具をその場に置き指揮者の指示で退場する。

III 操法実施上の基本事項

（1）全般事項

① 操法は安全確実に迅速的確に行なうこと。

② 指揮者及び隊員の動作は、原則として駆け足とし、動作及び操作の区切りは節度正しく行なうこと。

③ 隊員は、使用機械器具に精通するとともに、これらの愛護に心がけ、操法実施前後には、任務分担に基づく機械器具の点検を行なうこと。

（2）指揮者について

① 指揮位置は、常に隊員を掌握できる操法実施要領に定められた位置であること。

② 号令は明瞭で、指示・命令は簡明適切であること。

③ 各隊員の動作及び操作を十分に監視し、必要により指示命令を与えること。

（3）隊員について

① 低い姿勢で操作を行なうときは、折り膝またはこれに準じた姿勢をとること。

② 立った姿勢で操作を行なう時は、足を一步開くか又は踏み出した姿勢をとること。

③ 他の隊員の任務に属する操作を行なってはならない。

④ 延長ホース、余裕ホース及び吸水管投入等の修正は、「放水始め」の伝達を行なう前に修正しなければならない。

(4) その他

実施要領中の字句の解釈は次のとおりとする。

- ① 「いたり」とは、基本の姿勢から足を横に開くか又は踏み出した姿勢をいう。
(上体は、基本の姿勢に準ずる。)
「面していたり」とは、左右に約一步開脚した姿勢。(上体は基本の姿勢に準ずる。)
- ② 「停止」とは、走行の状態から基本の姿勢をとることをいう。
- ③ 「姿勢を正す(した)」とは、走行以外の動作の状態から基本の姿勢をとることをいう。
- ④ 操作員の経路は、実施要領のとおりとする。なお、火点側とポンプ側との間の隊員の移動経路(伝達経路等)は、おおむねホースに沿って最短距離を進むこととする。

IV 審査基準

1. 審査範囲

指揮者の「きをつけ」の号令から「わかれ」までの間とする。

2. 審査の要点

消防操法の基準(昭和47年5月11日消防庁告示第2号)によるほか、別に定める各操法実施要領に基づき、各隊員の操作要領及び行動等の全般並びに操作の所要時間について審査する。

要点は、次のとおりとする。

- (1) 士気・規律
- (2) 迅速な行動・動作・チームワーク
- (3) 確実な操作
- (4) 各隊員の安全管理
- (5) 機械器具の精通とその愛護

3. 審査の基準及び方法

(1) 審査基準

① 小型ポンプ操法

動作基準点	100点
所要時間基準点	100点
所要基準タイム	<u>5.5秒</u> (1秒に対し2点減点)

② 消火栓操法(男子)

動作基準点	100点
所要時間基準点	100点
所要基準タイム	<u>5.0秒</u> (1秒に対し2点減点)

③ 屋内消火栓操法（女子）

動作基準点 100点

所要時間基準点 100点

所要基準タイム 55秒（1秒に対し2点減点）

（2）採点方法

減点加算方式とする。

（3）計時・審査方法

- ① 2名で計測し、所要時間を100分の1秒まで計測する。計時が同一の場合はその値を採用し、2名の計時が異なるときは、その中間の値を採用する。
- ② 所要時間は、指揮者の「操作始め」の「め」から、標的の2つが完全に倒れる時点までとする。
- ③ この他、別紙審査表により審査を行うものとする。

4. 失 格

競技中、隊員に不慮の事故等が発生し競技の続行が不可能と認められる場合は、審査長の判断で競技の中止命令により失格とする。

5. 順位の決定

- （1）減点数の小なるものを優位とする。
- （2）（1）の減点数が同じ場合は、所要時間の減点数の小なるもの、または所要時間の小なるものを優位とする。
- （3）（1）及び（2）の方法によっても順位が決定しない場合は同順とする。

V 操法実施上の協定事項

1. ホース延長の際、操作員が足でつまずく、又は、ホースに足を引っ掛けてホースが動いたときには、器具愛護等のため減点とする。
2. ホース等を搬送時、地面に落下させた時は減点とする。
3. 障害物を通過しなかった時は減点とする（消火栓操法は対象外）。
4. 指揮者の命令が不明確、または誤りは減点とする。
5. 筒先、ホースの結合部が放水時離脱した場合は減点とする。
6. 小型ポンプ操法でホースの置き方は、操法実施要領に基づき3本とも同一方向とする。（配置図のとおり）

7. 第一ホースの余裕ホースは、放水口に結合する前にとる。
8. 1 番員は余裕ホースを取らなければならないが、その長さについては減点対象としない。
9. 小型ポンプ・消火栓操法で 1 番員が筒先及びホースを運搬する際、筒先のプレイパイプ下部を押さえても、押さえなくてもよい。
10. 小型ポンプ操法で、2 番員が 1 番員から「放水始め」の合図を受ける時期は、第 3 結合部を結合して基本姿勢をとった時期とする。この場合、2 番員の両足が第 3 結合部より火点側であること。
11. 消火栓操法で、2 番員が 1 番員から「放水始め」の合図を受ける時期は、第 2 結合部を結合して基本姿勢をとった時期とする。この場合、2 番員の両足が第 2 結合部より火点側であること。
12. 屋内消火栓操法で、指揮者が 1 番員から「放水始め」の伝達を受ける位置は、第 2 障害物より火点側であること。
13. 競技中に帽子等の落下、或いは顎紐等がはずれた場合、そのまま競技を続行しても減点対象としない。
14. 2 番員の注水補助位置、1 番員の一步後方とは 1 番員の後足と重なっていなければ良い。
15. ホースの結合の確認は、はかま部分を両手で引いて確認する。
16. 覆冠及び放口は、競技開始前に審査員が閉まり具合を点検する。
17. 機械器具は、予め進行係の指示で定位置に置く。
18. ポンプの型式・馬力等は規制しないが、各事業所に配備してあるものとする。
19. 吸水管 2 本を使用する場合は、予め結合しておく。
20. 競技中、負傷等により競技続行ができない場合は失格とする。
21. ポンプ等の圧力について
 - (1) 小型ポンプ…… 0.4 MP a
 - ① 0.4 MP a を超えた場合は減点とする。
 - ② 筒先から水が出るまでの間のポンプ圧力は問わない。

③ 2番員の「放水始め」の伝達後、4番員の「放水始め」復唱前に、放口から水が出た場合は減点とする。

(2) 消火栓 元ポンプ圧力 ……0.3 MP a

(3) 屋内消火栓 元ポンプ圧力 ……0.25 MP a

22. 屋内消火栓操法競技の場合、指揮者以下各隊員の音声マスクによって不明瞭になることが予想されるが、手信号による合図が明確であれば良い。

23. 消火栓操法に、女性が参加しても差し支えない。

24. ホース結合部には、器具愛護及び事故防止等のためムシロを敷く。

25. 操法実施要領違反は原則減点とする。ただし、操法指導時等に認めたものは対象外とする。

26. 審査の結果等についての一切異議の申し立てはできない。

【危険物初期消火競技の部】

I 実施要領

1. 競技概要

競技者1名が、消火器による初期消火技術を競うものとする。

2. 競技資器材等

(1) 事務局側で準備するもの

① 燃焼皿（ドラム缶）及び燃焼油等

(2) 出場チームで準備するもの

① ABC粉末消火器10型

② 手袋（軍手）・マスク等

3. 服装等

消火活動に適した服装とし、履物はズック等

4. 競技実施要領

危険物初期消火競技実施要領に基づき実施するものとする。

II 審査基準

1. 審査の基準及び方法

(1) 審査基準

動作基準点 100点

所要時間基準点 100点

所要基準タイム 20秒(男子)・20秒(女子) (1秒に対し2点減点)

(2) 採点方法

減点加算方式とする。

(3) 計時・審査方法

- ① 2名で計測し、所要時間を100分の1秒まで計測する。計時が同一の場合はその値を採用し、2名の計時が異なるときは、その中間の値を採用する。
- ② 競技の計測時間は、警笛の合図から体の一部がゴールライン上を超えた時点までを計測する。
- ③ この他、別紙審査表により審査を行なうものとする。

2. 順位の決定

別紙の審査及び採点基準により、競技得点等により優位決定する。

なお、同位の場合は同順とする。

3. 失 格

競技中、隊員に不慮の事故等が発生し競技の続行が不可能と認められる場合は、審査長の判断で競技の中止命令により失格とする。

4. 順位の決定

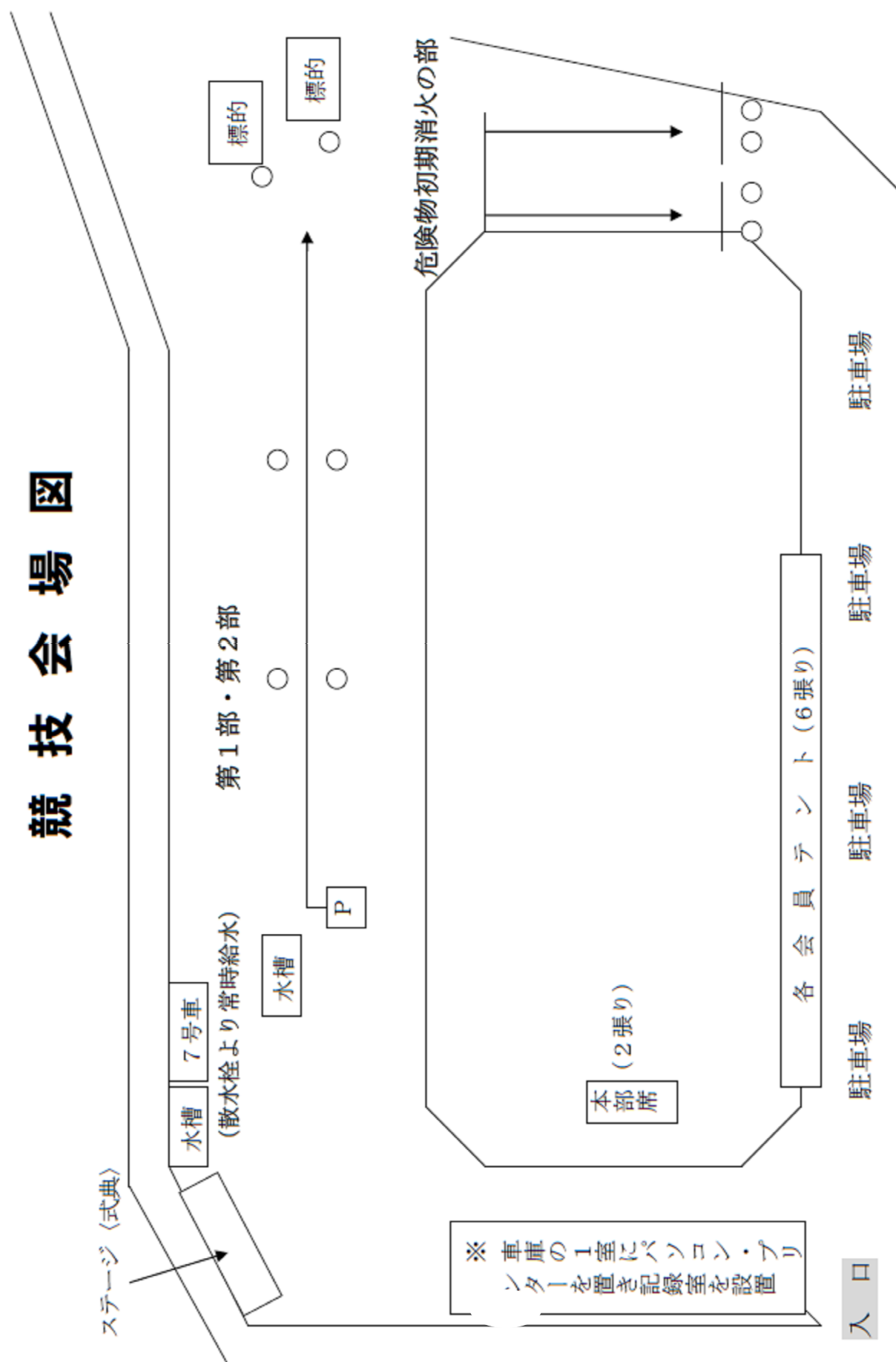
- (1) 減点数の小なるものを優位とする。
- (2) (1)の減点数が同じ場合は、所要時間の減点数の小なるもの、または所要時間の小なるものを優位とする。
- (3) (1)及び(2)の方法によっても順位が決定しない場合は同順とする

III 競技上の協定事項

1. 器具愛護に心がけること。

2. 審査の結果等についての一切異議の申し立てはできない。

競技会場図



小型ポンプ操法実施要領

- ※ 審査は、指揮者の「きをつけ」停止後の「わかれ」までとする。
- ※ タイム測定は、「操作始め」の「め」から標的の2つが完全に倒れるまでとする。
- ※ 点数 持点 200点 基準タイム 5.5秒 1秒に対し2点減点

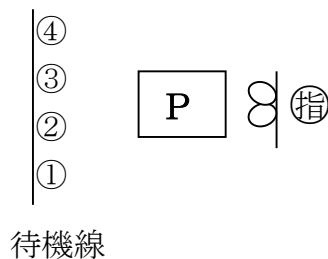
1 準備・待機

- 指揮者** 指揮者は、準備点検を指示。終了後待機線に整列を指示し、指揮位置で「整列休め」の姿勢で待機する。
- 各隊員** 各隊員は、点検後待機線上に、整列休めの姿勢で待つ（かかとを線に合わせる）。

2 点呼

係員の「準備いいですか」の問いかけに、指揮者が「準備よし」と返答の後、開始。

- 係員** 白旗合図 「横⇒上」 「操法開始」
- 指揮者** 指揮者は、係員の白旗合図で、各隊員に「きをつけ」と号令する。
- 隊員** 各隊員は、指揮者の「きをつけ」の号令で、基本の姿勢をる。
- 指揮者** 隊員に、「番号」と号令をかける。
- 隊員** 隊員は、指揮者の号令で1番員から順次各自の番号を呼称する。



3 開始報告

- 指揮者** 番号呼称後、回れ右をして、かけ足で審査長の前方5mで停止し挙手注目の敬礼を行い「〇〇会社自衛消防隊、ただ今から小型ポンプ操法を開始します。」と報告し、挙手注目の敬礼の後、回れ右を行い、かけ足で指揮位置に戻り隊員に相対して停止する。



- 隊員** 指揮者の開始報告中は、基本の姿勢で待つ。

主な減点

- ① 指揮者が審査長に敬礼しなかった。
- ② 指揮者の開始報告の著しい間違い。

4 想定付与

指揮者 隊員に想定付与、「火点は前方の標的、水利はポンプ左側後方貯水槽、手びろめによる二重巻きホース一線延長」「定位につけ」と号令する。

隊員 各隊員は、基本の姿勢で指揮者の想定を受ける。

主な減点

- ① 指揮者の想定付与が著しく間違っていた。

5 定位

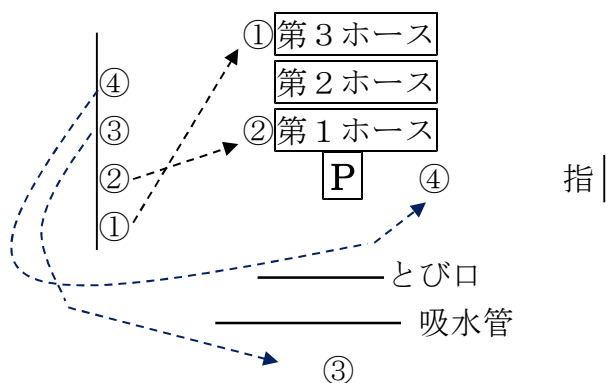
指揮者 指揮位置で各隊員の定位を確認。

1番員 1番員は、半ば左向けをし、かけ足行進の要領で発進し、第3ホースに正対して停止。

2番員 2番員は、半ば左向けをし、かけ足行進の要領で発進し、第1ホースに正対して停止。

3番員 3番員は、右に大きく向きを変え、かけ足行進の要領で発進し、吸水管右中央で停止。

4番員 4番員は、右に大きく向きを変え、かけ足行進の要領で発進し、ポンプ右側に沿って、ポンプ前で停止。



6 操作始め

指揮者 隊員が定位についたならば、直ちに「操作始め」と号令する。

各隊員 指揮者の「操作始め」で4番員は「よし」の合図をし、各隊員は4番員の合図で各操作を開始する。

主な減点

- ① 指揮者の操作始めで4番員が「よし」の合図をしなかった。

7 第1線延長

指揮者

① とび口搬送

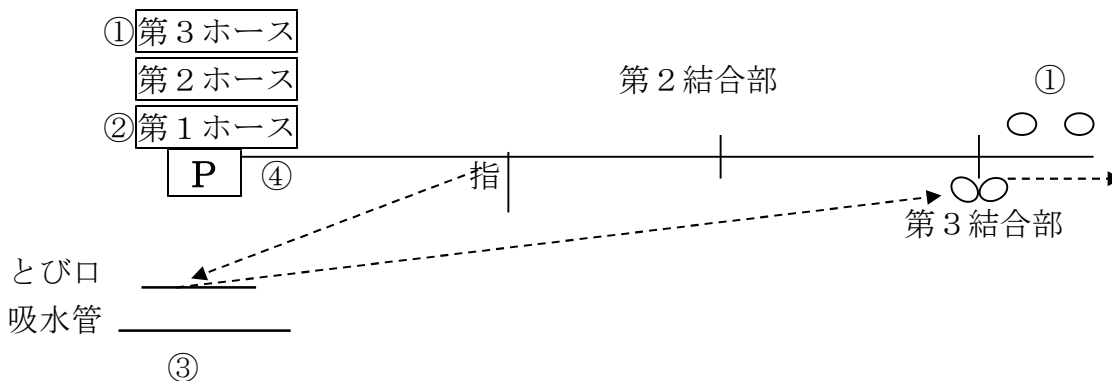
4番員の「よし」の合図で、左に向きを変えポンプ横とび口左側にいたり、左足を立てた折りひざの姿勢でとび口をとり、立ち上がりと同時に左脇下に抱え、かけ足で発進し1番員に先行して第3結合部で、ホース右側に正対して停止し、隊員を監視する（とびは45度下向きに持つ）。

② 1番員監視

1番員の筒先と第3ホースの結合操作確認後、1番員に先行して火点に前進、停止線と注水線内の3番員が部署する位置（1番員放水位置左2m）にとび口を置く。

③ シート掛け

標的手前の障害物に、3番員が搬送してきたシートを3番員と協力して、水損防止用のシートを掛け、その後停止線と注水線の内に入り、各隊員の操作を監視する（「伝達終わり」の後、㊦の方向を向く）。



主な減点

- ① 1番員に先行して、第3結合部で1番員を監視しなかった（首を振る）。
- ② 障害物へのシートの掛け方が著しく悪い。

1番員

① 筒先・ホース搬送

4番員の「よし」の合図で、折り膝の姿勢で右手は筒先のノズル部を、左手は背負い紐の中央部をもち、頭及び左腕をくぐらせて、ノズルが右肩に元金具が左腰の近くになるように背負い、次に第3ホースの、めす金具が上部斜め前方になるように左肩上に乗せて、めす金具を左手に持ち変え発進する。

第3結合部にいたり、左手（めす金具を持ったまま）を下げると同時に右手でめす金具を持ち変え左手でめす金具の反対側を保持し、めす金具が手前になるように肩から下ろす。

② ホース展張

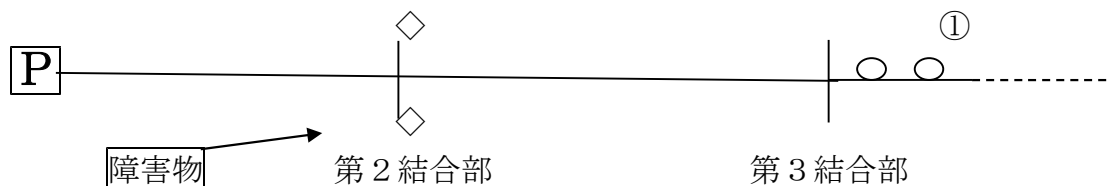
続いて、右足先でめす金具付近を踏み、右手でおす金具を持ち左手をホースに添えて、左足を一步踏み出し右手でホースを展張する。

③ 筒先の降ろし方

次に、右手はおす金具を持ったまま、左足を軸に身体を右回りに反転し、おす金具を左足近くに置き、体を起こしてポンプ方向を見る。更に、左手で筒先の取手近くを握り、元金具を腰部から頭上へ移動。背負い紐を右手に持って頭をくぐらせ、右手はノズル付近を持ち左手はプレイパイプの中央部に持ち変える。

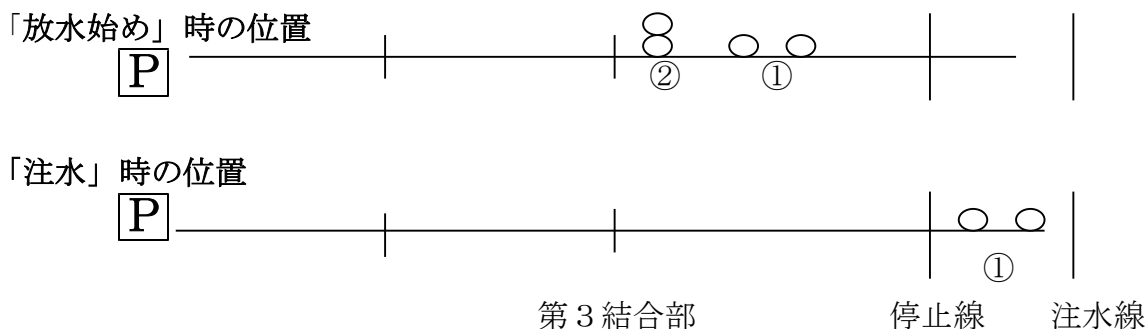
④ 筒先とホースの結合

左足でおす金具を押さえ、筒先を第3ホースに結合、確認して「よし」と呼称し、左手でノズル近く右手は取手を握ると同時にホースから左足を離して、右足を軸に火点側に一步踏み込み、基本注水姿勢をとる。



⑤ 放水始めの合図

2番員が第2ホースと第3ホースを結合して、姿勢を正した時点で火点に向いたまま2番員に「放水始め」と合図し、火点に向かって前進し、停止線と注水線内に入って余裕ホースを取り、基本注水姿勢をとる。



主な減点

- ① ホースを左肩に乗せて搬送していない。
- ② 筒先の背負い紐を右肩に掛けていない。
- ③ 筒先結合し、確認して「よし」の呼称をしなかった。
- ④ 2番員がホースを結合して、姿勢を正す前に「放水始め」の合図をした。
- ⑤ 余裕ホースを取る動作をしなかった。
- ⑥ 放水時に注水線から足が出ていた。
- ⑦ 放水時に筒先とホースが離脱した。

2番員

① 第1ホース展張

4番の「よし」の合図で、第1ホースの前に左足を一步踏み出し、第1ホースを、ポンプ左横にめす金具が手前になるように立て、右足先でめす金具を押さえ、右手で

おす金具、左手をホースに添え展張し、おす金具近くを折って第2ホース付近に置き、右足をホースから離し、めす金具を両手で持ち上げ、余裕ホースをとった後、両手でめす金具を放水口に結合、確認して「よし」と呼称する。

② 第2ホース搬送・延長

結合確認後、第2ホースを左肩に担ぎ、第1ホースのおす金具を右手に持ち腰にあてた後、延長ホースの左側に沿って前進し第2結合部にいたり、第1ホースのおす金具をその場に置き、第2ホースをめす金具が手前になるように肩から降ろして地面に立てた後展張し、第2ホースおす金具を折って搬送に便利な位置に置き、第1ホースのおす金具を右足で押さえ、第2ホースと結合し、確認して「よし」と呼称する。

③ 第2・第3ホース結合

続いて、第2ホースのおす金具を右手に持って腰につけた後、展張ホースの左側に沿って、第3ホース結合部にいたり、第2ホースのおす金具をその場に置き（第1・第2ホースの結合要領と同じ）、結合を確認して「よし」と呼称し、身体を起し火点の方向に向き、右足を左足に引きつけて姿勢を正す（両足のかかところが第3結合部より火点側になること）。



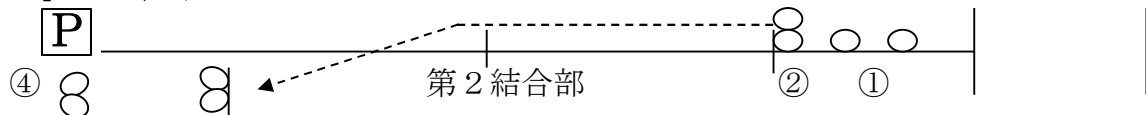
④ 放水始めの伝達

姿勢を正した後、1番員の「放水始め」の合図を「放水始め」と復唱し、回れ右（足を引き付けない）をして、延長ホースに沿って前進し、第2結合部以降でホースをまたいで、ポンプ前2m以内の位置で4番員に相対して右手を垂直に上げて「放水始め」と伝達する。

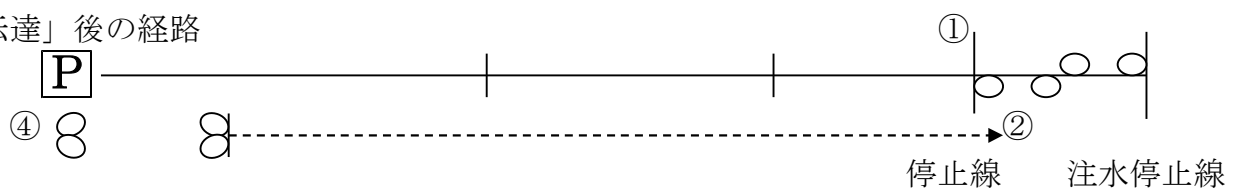
⑤ 放水始めの伝達後

「放水始め」の伝達後、4番員が「放水始め」を復唱し、右手を下したのを確認後、回れ右（足を引き付けない）をして発進、延長ホースに沿って走り1番員の一步後方にいたり（右足を一步踏み出した姿勢）、「伝達終わり」と合図して注水補助を行う。

「伝達」時の経路



「伝達」後の経路



主な減点

- ① 放水口に結合する前に余裕ホースをとる動作をしなかった。
- ② 放水口に結合、確認して「よし」の呼称をしなかった。

- ③ ホースを左肩に乗せて搬送していない。
- ④ 結合部がホースの引きずり等で動いたり、ムシロよりはみ出た。
- ⑤ 「放水始め」を受けた時、第3結合部より火点側に両足かかが入っていなかった。
- ⑥ 4番員に放水始めを伝達する時、両足かかが入って伝達線内に入っていなかった。
- ⑦ ホース金具が放水時に離脱した。

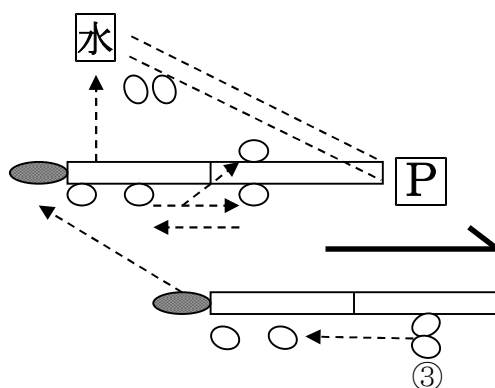
3番員

① 吸水管搬送

4番員の「よし」の合図により、回れ右（足は引き付けない）をし、ストレーナ付近に移動、吸水管を4番員と協力して両手で腹部まで持ち上げ、引きずらないようポンプ後方に搬送しその場に置く。ポンプ側に方向を変え、4番員の2歩後方の位置にいたり、左足で吸水管をまたいで、両手と両足ではさみ、4番員の吸水管結合の補助を行う。

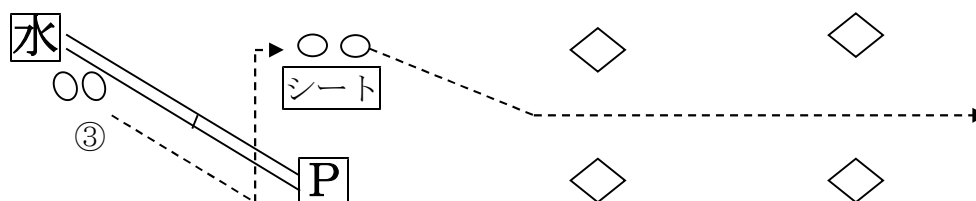
② 吸水管水利への投入

次に、4番員の結合の「よし」の合図で両手両足を離し、右足を軸に左足で吸水管をまたぎながら、ストレーナ付近に移動し、吸水管を両手で腹部まで持ち上げ、4番員の「よし」で前進し、「よし」と合図して4番員と協力して水利に投入する。



③ シート搬送

吸水管投入後、シートを左わきに抱え火点に運び、指揮者と協力して標的付近の障害物に水損防止用のシートを掛ける。その後、停止線と注水線内に入り、1番員の左側で指揮者が搬送したとび口を持って構える（とび口の角度はおおむね45度上向きとする）。



主な減点

- ① 吸水管を引きずって移動をした。
- ② 4番員の吸水管結合の補助をしなかった。
- ③ 吸水管を水利に投入時に「よし」の合図をしなかった。
- ④ 障害物へのシーツの掛け方が著しく悪い。
- ⑤ とび口を構えた時、注水線より足が出ていた。

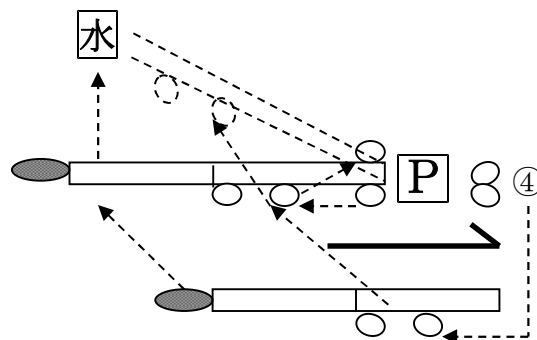
4番員

① 吸水管搬送

指揮者の「操作始め」の号令で「よし」と合図し、半ば右向け右（足は引き付けない）の要領で向きを変え吸水管右側にいたり、吸水管を3番員と協力して両手で腹部まで持ち上げ、ポンプ吸水口付近に搬送しその場に置く。

次いで、吸水口に面するよう左足で吸水管をまたぎ、吸水口覆冠をはずし、結合金具を両手で持つと同時に両足ふくらはぎで吸管をはさみ、3番員の補助で吸水口に結合し「よし」と合図する。

続いて、両手両足を吸管から離し、右足を軸に左足で吸管をまたぎながらストレーナ方向に向きを変えて発進し、吸管中央部右側の位置にいたり、吸水管を両手で腹部まで持ち上げ、「よし」と合図して前進し、3番員の「よし」の合図で投入補助する。



② エンジン始動

吸水管投入後、ポンプのエンジンを始動して吸水操作を行い、姿勢を正して2番員からの放水始めの伝達を待つ。

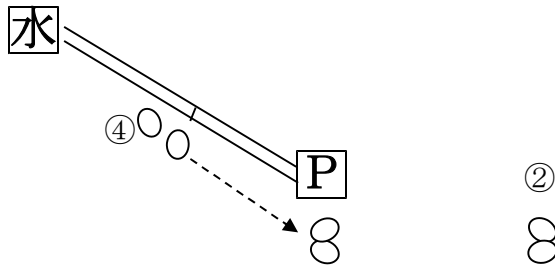
③ 放水始め

2番員の「放水始め」の伝達に、右手を真上に上げ、「放水始め」と復唱して手を下ろし、計器に配慮しながら放口を徐々に開き、スロットルレバーを操作し適正圧力を保つ。

主な減点

- ① 指揮者の操作始めで「よし」と合図しなかった
- ② 吸水管を吸水口に結合した時「よし」の合図をしなかった。
- ③ 吸水管を水利に移動するとき、「よし」の合図をしなかった。

- ④ エンジン始動操作が悪い。
- ⑤ 右手を真上に上げ、「放水始め」の復唱をしなかった。
- ⑥ 放水時にポンプ圧力が0.4 MPa以上であった。



8 放水止め

係員 赤旗合図 「横⇒下」 **「放水中止」**

指揮者 係員の赤旗の合図で、火点監視の姿勢から、1番員の方向に左向けをして**「放水止め」**と号令し、各隊員の操作を監視し、2番員の「伝達終わり」合図後、1番員が筒先を立てた時の「よし」の合図で火点側に向きを変える。

1番員 指揮者の放水止めの号令で**「放水止め」**と復唱し、2番員の「伝達終わり」の合図で、右手でノズルを握り**「よし」**と合図して、左手を離すと同時に左足を右足に引き付け、筒先を右足きわに立てて姿勢を正す。

2番員 1番員の「放水止め」の合図で**「よし」**と合図して、後方に向きを変えホースに沿って走り、ポンプ前2m以内の位置で、4番員に相対して右手を横水平に上げ、**「放水止め」**と伝達し、4番員が復唱し手を下ろしたのを確認した後、手を下し、回れ右をして（足は引き付けない）ホースに沿って走り、1番員の後方で停止し**「伝達終わり」**と合図する。

3番員 1番員の「よし」の合図で、左足を右足に引き付けると同時に、とび口を右足ぎわに立てて姿勢を正す。

4番員 指揮者の「放水止め」で計器を見る。2番員の「放水止め」の伝達で、右手を横水平に上げて**「放水止め」**と復唱し手を下ろし、スロットルレバー及び放水口ロックを徐々に閉めて、火点に向かって姿勢を正す。

9 解散

指揮者 係員の合図により、大きく左に向きを変えて、各隊員に**「わかれ」**と号令し、答礼し解散。

各隊員 指揮者の「わかれ」の号令で、15度の敬礼を行い解散する。

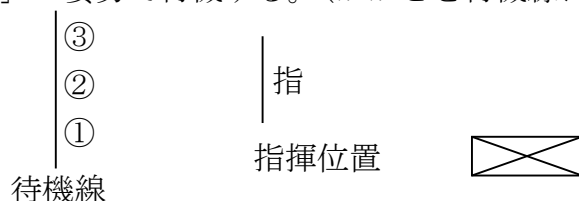
消火栓操法実施要領

- ※ 審査は、指揮者の「きをつけ」から放水停止後の「わかれ」までとする。
- ※ タイム測定は、「操作始め」の「め」から標的の2つが完全に倒れるまでとする。
- ※ 点数 持点 200点 基準タイム 50秒 1秒に対し2点減点

1 準備・待機

指揮者 係員の指示により、操法競技に使用するホース2本と筒先を消火栓箱内に収納し、準備が完了したならば、指揮位置で「整列休め」の姿勢で待機する。

各隊員 係員の指示により、操法競技に使用するホース2本と筒先を消火栓箱内に収納し、準備が完了したならば、待機線上に一直列横隊の隊形で火点に向かって「整列休め」の姿勢で待機する。(かかとを待機線に合わせる。)



2 点呼

係員の「**準備いいですか**」の問いかけに、指揮者が「**準備よし**」と返答の後、開始。

係員 白旗合図 「横⇒上」 「**操法開始**」

指揮者 指揮者は、係員の白旗合図で、各隊員に「**きをつけ**」と号令する。

各隊員 各隊員は、指揮者の「きをつけ」の号令で、基本の姿勢をとる。

指揮者 各隊員に、「**番号**」と号令をかける。

各隊員 隊員は基本の姿勢のまま、1番員から順次各自の番号を呼称する。

3 開始報告

指揮者 番号呼称後、回れ右をして、審査長に相対して挙手注目の敬礼を行い「**〇〇会社自衛消防隊、ただ今から消火栓操法を開始します。**」と報告し、挙手注目の敬礼を行い、回れ右を行い、隊員に相対し想定を与える。

各隊員 基本の姿勢で集合線上で待つ。



主な減点

- ① 指揮者が審査長に対し敬礼をしなかった。
- ② 指揮者の開始報告が著しく間違っていた。

4 想定付与

指揮者 隊員に想定付与、「**火点は前方の標的、水利は右前方の消火栓、一線延長**」
「**操作始め**」と号令する。

各隊員 各隊員は、基本の姿勢で想定を受けて、指揮者の「操作始め」で、各隊員は
「**よし**」と合図する。

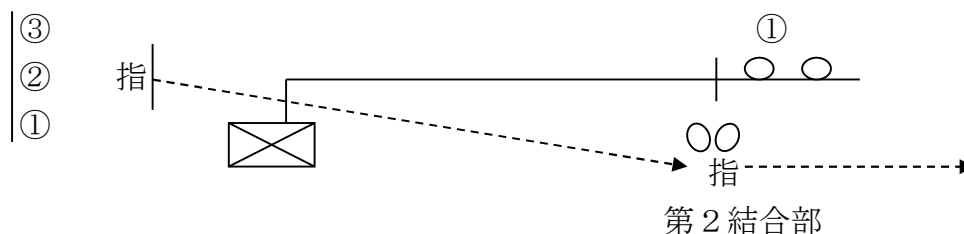
主な減点 ① 指揮者の想定付与が著しく間違っていた。

5 第1線延長

指揮者

① 監視

「操作始め」と号令し、各隊員の「よし」で、1番員に先行して第2結合部付近で1番員の操作を監視し、1番員の筒先と第2ホースの結合操作を確認後、更に1番員に先行して火点に向かって前進し、停止線と注水線内で各隊員を監視し、2番員の「伝達終わり」で火点に向かって姿勢を正す。



主な減点

① 1番員に先行して、第2結合部で1番員の監視をしなかった。(首を振る)

1番員

① 筒先

指揮者の操作始めで「よし」と合図し、かけ足で消火栓箱にいたり、筒先を背負う（右手でノズル、左手で背負い紐の中央を持ち、左肩をくぐらせてノズルが右肩に元金具が左腰の近くになるように背負う）。

② ホース搬送

3番員から渡された第2ホースを左肩に担ぎ、火点に向かって前進し、第2結合部にいたり、左手（めす金具をもったまま）を下げると同時に右手でめす金具を持ち変え、左手でめす金具の反対側を保持し、めす金具が手前になるよう肩から下ろす。

③ ホース展張

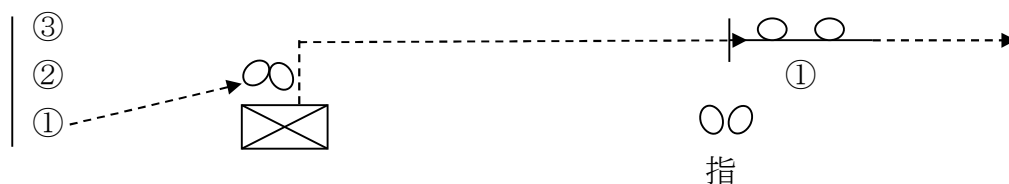
ホースを降ろし、右足先でめす金具付近を踏み、右手でおす金具を持ち左手をホースに添えて、左足を一步踏み出し右手でホースを展張する。

④ 筒先の降ろし方

展張後、右手はおす金具を持ったまま、左足を軸に身体を右回りに反転し、おす金具を左足近くに置き、体を起こして消火栓箱方向を見る。更に、左手で筒先の取手近くを握り、元金具を腰部から頭上へ移動。背負い紐を右手に持って頭をくぐらせ、右手はノズル付近を持ち左手はプレイパイプの中央部に持ち変える。

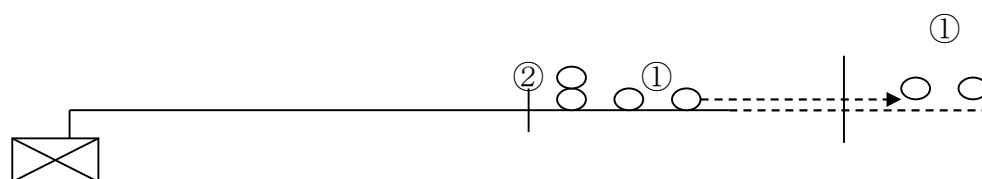
⑤ 筒先とホースの結合

左足でおす金具を押さえ、筒先を第2ホースに結合、確認して「よし」と呼称し、左手でノズル近く右手は取手を握ると同時にホースから左足を離して、右足を軸に火点側に一步踏み込み、基本姿勢をとる。



⑥ 放水始め

2番員が第1、第2ホースを結合して「よし」の呼称後、姿勢を正したのを確認したならば、「放水始め」と合図し、2番員が復唱後、火点に向かって前進し停止線と注水線内で余裕ホースを取り注水姿勢を取る。



主な減点

- ① ホースを左肩に乗せて搬送していない。
- ② 筒先の背負い紐を右肩に掛けていない。
- ③ 筒先結合時、「よし」の呼称をしなかった。
- ④ 2番員がホースを結合して、姿勢を正す前に「放水始め」の合図をした。
- ⑤ 余裕ホースを取る動作をしなかった。
- ⑥ 放水時に注水線から足が出ていた。
- ⑦ 放水時に筒先とホースが離脱した。

2番員

① ホース展張

操作始めで「よし」と合図し、駆け足で消火栓箱にいたり、第1ホースをめす金具が手前になるように立て、右足先でめす金具を押さえ、右手でおす金具、左手をホースに添え展張し、おす金具をその場に置き、めす金具を両手で持って余裕ホースをとった後、消火栓箱の放口に結合、確認して「よし」と呼称する。

② ホース結合

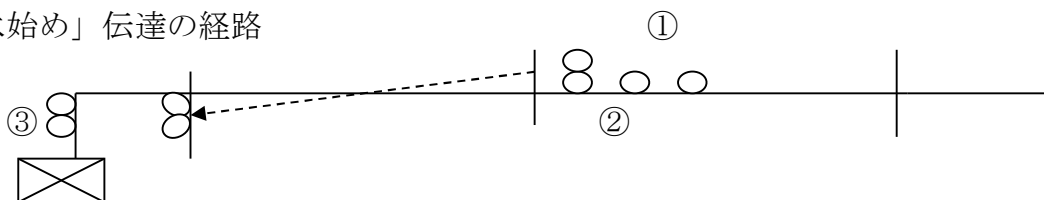
続いて、第1ホースのおす金具を右手に持って第2結合部付近にいたり、おす金具をその場に置き、これを右足でおさえ第2ホースめす金具を両手で持って、第1ホースと第2ホースを結合し、結合を確認して「よし」と呼称し、第2ホース結合部より火点側で姿勢を正す（基本の姿勢）。



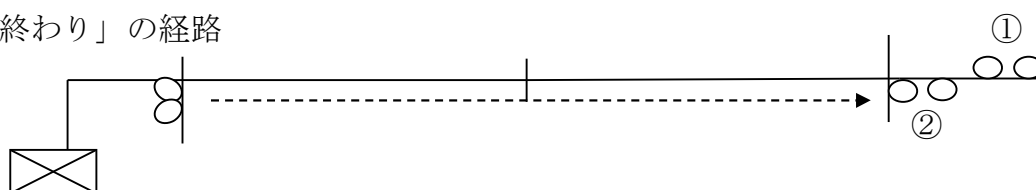
③ 放水始めの伝達

ホースを結合し、確認して「よし」と呼称し、結合部より火点側で姿勢を正した後、1番員の「放水始め」の合図を復唱し、回れ右をして（足は引き付けない）前進し、消火栓箱2 m以内の位置で3番員に相対し右手を上げて「放水始め」と伝達する。3番員が「放水始め」を復唱し、右手を下ろした後、回れ右をして（足は引き付けない）火点に進み、1番員の反対側一步後方にいたり、「伝達終わり」と合図して注水補助を行う。

「放水始め」伝達の経路



「伝達終わり」の経路



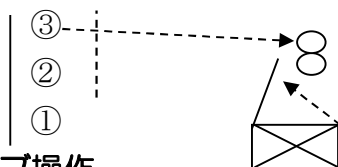
主な減点

- ① 放水口に結合する前に余裕ホースをとる動作をしなかった。
- ② 放水口に結合時「よし」の呼称をしなかった。
- ③ ホースの結合時「よし」の呼称をしなかった。
- ④ 1番員より放水始めを受けた時に、第2結合部より火点側に両足かかとが入っていなかった。
- ⑤ 3番員に「放水始め」を伝達する時、両足かかとが伝達線内に入っていなかった。
- ⑥ ホース金具が、放水時に離脱した。

3番員

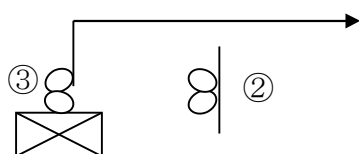
① 扉の開放

操作始めで「よし」と合図し、駆け足で消火栓箱にいたり、消火栓箱の扉を開き、1番員にホースを渡し一步後方で待機している。



② バルブ操作

2番員の「放水始め」の伝達を、右手を上げて「放水始め」と復唱し手を下ろした後、消火栓箱に面して、両手で放水口バルブを開き送水操作をする。操作後、その場で火点に向かって姿勢を正す。



主な減点

- ① 消火栓箱の扉を3番員が開けなかった。
- ② 1番員にホースを渡さなかった。
- ③ 2番員の「放水始め」の伝達を右手を上げて、「放水始め」と復唱しなかった。
- ④ 放水口バルブを両手で開けなかった。

6 放水中止

係員 赤旗合図 「横⇒下」 **「放水中止」**

指揮者 係員の赤旗の合図で、1番員の方向に向きを変え**「放水止め」**と号令し（2番員が「伝達終わり」の伝達後）、1番員が「よし」で姿勢を正したならば、火点に向かって姿勢を正す。

1番員 指揮者の「放水止め」の号令を**「放水止め」**と復唱し、2番員が伝達後、1番員の後方で2番員が「伝達終わり」と合図したならば、右手でノズルを握り**「よし」**と合図して、左手を離すと同時に左足を右足に引き付け、筒先を右足きわに立てて姿勢を正す。

2番員 1番員の「放水止め」の合図で**「よし」**と合図して、後方に向きを変えホースに沿って走り、消火栓箱前2m以内の位置で、3番員に相対して右手を横水平に上げ、**「放水止め」**と伝達し、3番員が復唱し、右手を下ろした後、回れ右をして（足は引き付けない）ホースに沿って走り、1番員の後方で停止（足を引き付ける）**「伝達終わり」**と合図する。

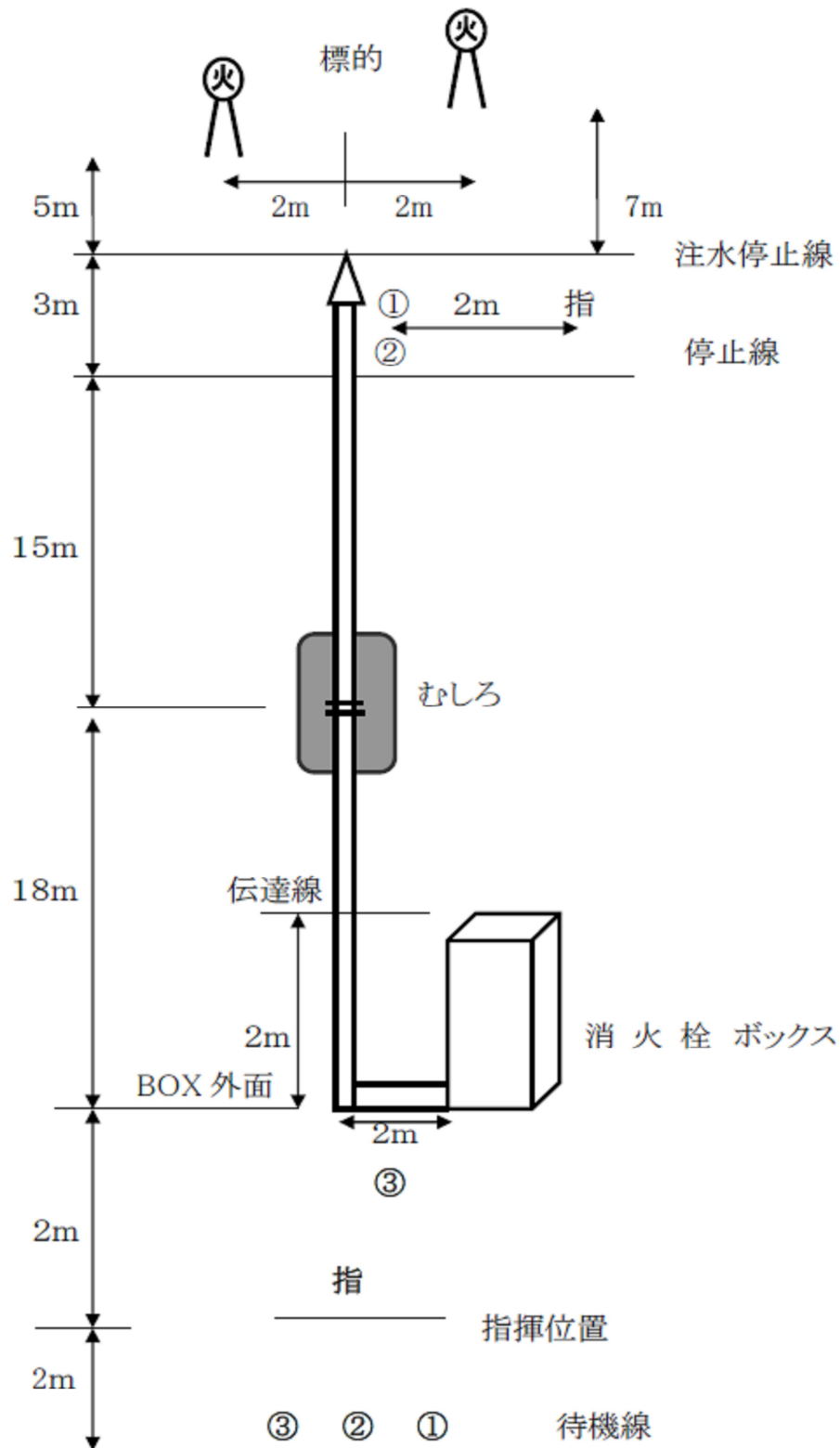
3番員 2番員の「放水止め」の伝達を受けたなら、右手を横水平に上げ**「放水止め」**と合図した後、放水停止措置を行い、火点に向かって姿勢を正す。

7 解散

指揮者 係員の合図により、1番員の方向に向きを変えて**「わかれ」**と号令して、答礼をして解散。

各隊員 指揮者の「わかれ」の号令により、一斉に前方に向かって15度の敬礼を行い解散する。

消火栓操作配置図



屋内消火栓操法実施要領

- ※ 審査は、「きをつけ」から放水停止後の「わかれ」までとする。
- ※ タイム測定は、「操作始め」の「め」から標的の2つが完全に倒れるまでとする。
- ※ 点数 持点 200点 基準タイム 5.5秒 1秒に対し2点減点

1 準備・待機

指揮者 係員の指示により、操法競技に使用するホース2本と筒先を消火栓箱内に収納し、準備が完了したならば、指揮位置で「整列休め」の姿勢で待機する。

各隊員 係員の指示により、操法競技に使用するホース2本と筒先を消火栓箱内に収納し、準備が完了したならば、待機線上に一直線横隊の隊形で火点に向かって「整列休め」の姿勢で待機する。



2 点呼

係員の「準備いいですか」の問いかけに、指揮者が「準備よし」と返答の後、開始。

係員 白旗合図 「横⇒上」 「操法開始」

指揮者 指揮者は、係員の白旗合図で、各隊員に「きをつけ」と号令する。

各隊員 各隊員は、指揮者の「きをつけ」の号令で、基本の姿勢を取る。

指揮者 各隊員に、「番号」と号令をかける。

各隊員 隊員は、基本の姿勢のまま、1番員から順次各自の番号を呼称する。

3 開始報告

指揮者 回れ右を行い審査長に相対して挙手注目の敬礼を行い「〇〇会社自衛消防隊
ただ今から、屋内消火栓操法を開始します。」と報告し、挙手注目の敬礼を行って、
回れ右をし、隊員に相対して想定を与える。

各隊員 基本の姿勢で待つ。



主な減点 ① 指揮者が審査長に対し敬礼をしなかった。
② 指揮者の開始報告が著しく間違っていた。

4 想定付与

指揮者 想定付与、「火点は前方の標的、水利は右前方の屋内消火栓、一線延長」
「操作始め」と号令する。

各隊員 各隊員は、基本の姿勢で想定を受けて、指揮者の「操作始め」で、各隊員「よし」と合図する。

主な減点 ① 指揮者の想定付与が著しく間違っていた。

5 一線延長

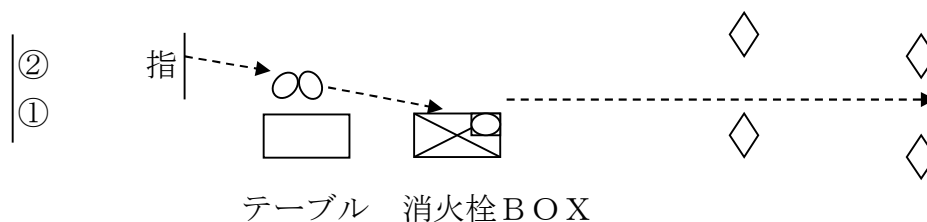
指揮者

① マスク等装着

「操作始め」と号令し、各隊員の「よし」で、前方の台上にあるマスクで口、鼻を覆い、手袋を完全にはめて消火栓箱にいたり扉を開く。

② ホース修正・監視

1番員が延長するホースを修正しながら火点に進み、1番員が停止線と注水線内で、余裕ホースをとったことを確認できる位置で（第2障害物より火点側）、基本の姿勢で各隊員の操作状況を監視する。



主な減点 ① マスクで口、鼻を確実に覆っていなかった。
② 手袋をはめていなかった。

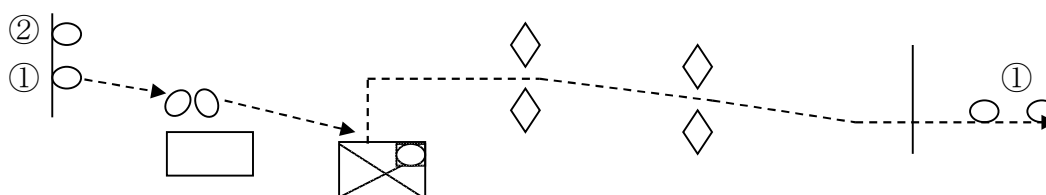
1番員

① マスク等装着

指揮者の、「操作始め」で「よし」と合図し、前方の台上にあるマスクで口、鼻を覆い、手袋を完全にはめて消火栓箱にいたる。

② ホース延長

筒先の結合されているホースを脇下にかかえ、障害物を避けながら順次ホースを延長し、停止線と注水線内でいたり、余裕ホースをとり注水姿勢で頭部のみ後方に向け指揮者を待つ。



主な減点 ① マスクで口、鼻を確実に覆っていなかった。
② 手袋をはめていなかった。
③ 余裕ホースをとる動作をしなかった。

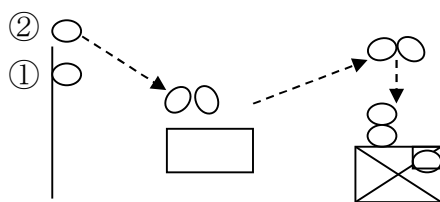
2番員

① マスク等装着

指揮者の、「操作始め」で「よし」と合図し、前方の台上にあるマスクで口、鼻を覆い、手袋を完全にはめて消火栓箱にいたる。

指揮者と1番員の操作が終わるまで、消火栓箱一步後方でいたりの姿勢で待機又は1番員の補助を行い、操作が終了したならば、消火栓箱の横で基本の姿勢をとって、

指揮者の「放水始め」の伝達を待つ。



主な減点 ① マスクで口、鼻を確実に覆っていなかった。
② 手袋をはめていなかった。

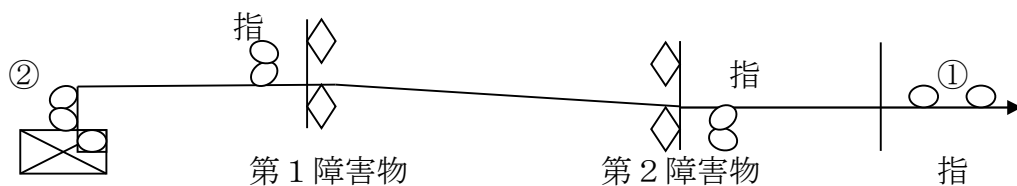
6 放水始め

指揮者

① 放水始め

1 番員の「放水始め」の伝達を受けたならば（第2障害物より火点側で受けること）右手を真上に上げ「放水始め」と復唱し、回れ右（足を引き付けない）をして、第1障害物の前まで進む。

第1障害物よりボックス側で、2番員に対し、右手を真上に上げ「放水始め」と伝達して、2番員が復唱し右手を下ろしたのを確認後、右手を下ろした後、回れ右（足を引き付けない）をして火点に進み停止線と注水線の間で火点側に向かって姿勢を正す。



主な減点 ① 「放水始め」の合図を受ける時、第2障害物より火点側で受けなかった。
② 「放水始め」の伝達を第1障害物よりボックス側で伝達をしなかった。

1 番員

① 注水

指揮者に対し、右手を真上に上げ「放水始め」と合図し、指揮者が「放水始め」と復唱したのを確認して、停止線と注水線の間で注水姿勢を取る。

主な減点 ① 注水線より火点側に足が出ていた。

2 番員

① 放水始め

指揮者から、「放水始め」の伝達を受けたならば、右手を真上に上げ「放水始め」と復唱し、右手を下ろした後、起動ボタンを押し、続いて両手で放水口バルブを開き、火点側に向かって姿勢を正す。



- 主な減点 ① 「放水始め」の伝達を復唱しなかった。
 ② 指揮者の「放水始め」前に、放水口バルブを開いた。
 ③ 起動ボタンの操作をしなかった。

7 放水中止

係員 赤旗合図 「横⇒下」 「**放水中止**」

指揮者 係員の赤旗の合図で「**放水止め**」と号令し向きを変え、ホースにそって第1障害物よりボックス側まで前進して停止。2番員に対し右手を横水平に上げ「**放水止め**」と伝達する。2番員が「放水止め」と復唱後、右手を下ろしたのを確認して、右手を下ろし回れ右（足を引き付けない）をして、火点側の指揮位置まで進み左向け停止し、1番員に面して「**伝達終わり**」と合図する。その後、1番員が「よし」で姿勢を正したならば、火点に向かって姿勢を正す。

1番員 指揮者が「伝達終わり」と合図した後、「よし」と合図して左足を右足に引き付けると同時に右手でノズルを持ち、筒先を右足きわに立てて姿勢を正す。

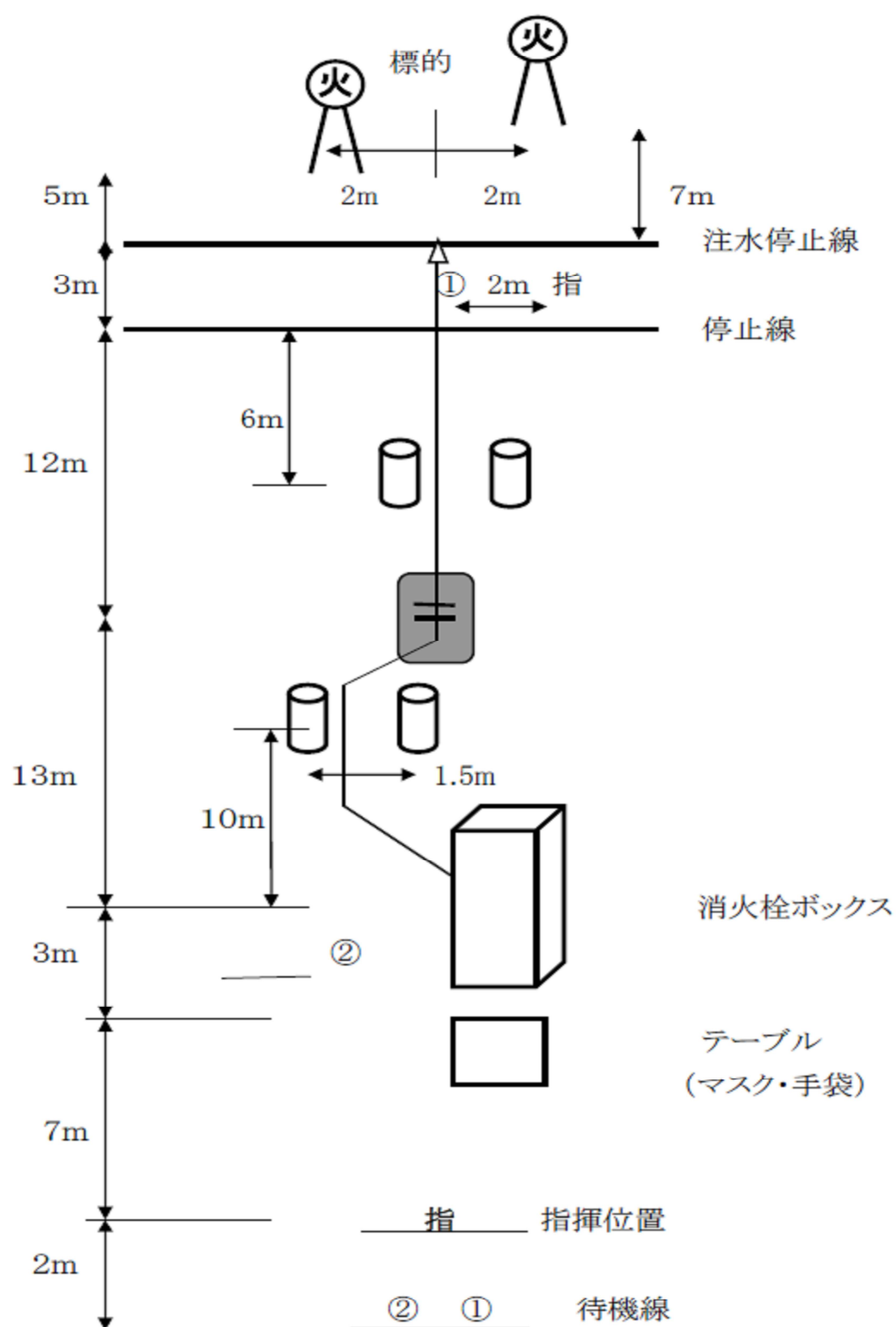
2番員 指揮者の「放水止め」の伝達を受けたならば、右手を横水平に上げて「**放水止め**」と復唱した後、放水停止措置を行い、火点側に向かって姿勢を正す。

8 解散

指揮者 係員の合図で隊員の方向に向きを変え「**わかれ**」と号令して、答礼をして解散。

各隊員 指揮者の「わかれ」の号令により、一斉に前方に向かって15度の敬礼を行い解散する。

屋内消火栓操作法配置図



危険物初期消火競技実施要領

1 競技概要

1 チーム競技者 1 名で、消火器による油火災の消火活動の技術を競うものとする。

2 競技要領

(1) 待機

「準備完了」前までに、消火器を指定場所に設置し、手袋・マスクを着装しておく。
競技者は、スタートラインに位置し、係員に対し「**準備完了**」と合図する。

(2) 競技開始

競技者の合図の後、係員（消防署員）の警笛で競技を開始する。

(3) 競技要領

① 操作員は、警笛による合図で「火事だ」と呼称し、指定通路を通り、消火器設置箇所
で消火器を取った後、火点付近に至り消火する。

② 消火を確認後、火点近くの消火器収納箱に消火器を入れる。

なお、収容箱に入れる際は、器具愛護を心がけること。

③ 消火後、指定通路を通りゴールラインの位置に戻る。

3 配置図

別図のとおり

4 審査の基準及び方法

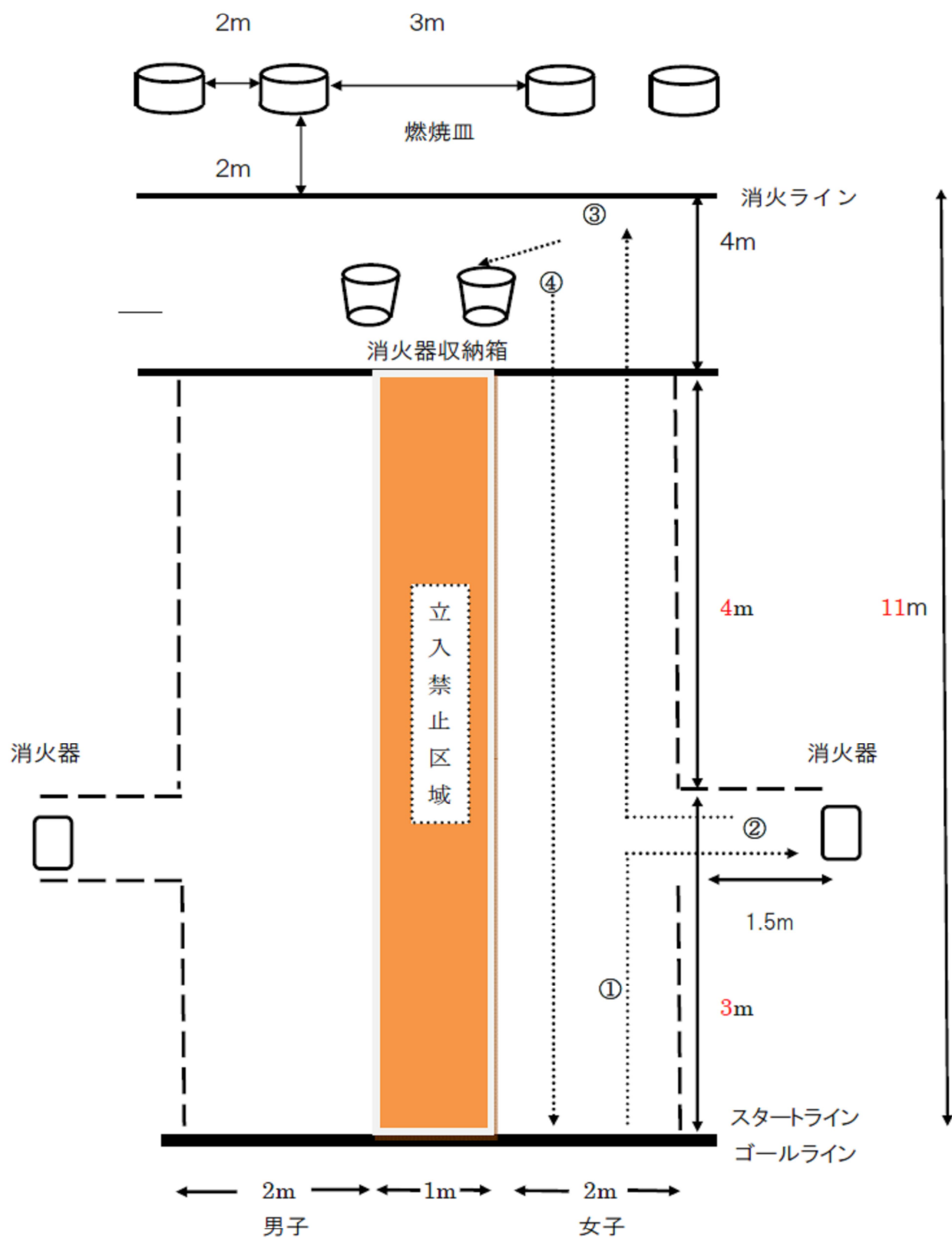
(1) 動作基準点	100点
所要時間基準点	100点
所要基準タイム	<u>20秒（男子）・20秒（女子）</u> （1秒に対し2点減点）

(2) 採点方法

減点加算方式とする。

(3) 他、審査基準は第一部・二部同様とする。

危険物初期消火競技配置図



小型ポンプ審査表

指 揮 者	事業所名	
	審査員名	

減 点 項 目	減 点	計
審査長に対し敬礼の不履行	1	
開始報告の誤り	1	
想定付与の誤り	1	
1 番員に先行し、第 3 結合部で 1 番員を監視しなかった (首を振る)	1	
シートの掛け方が著しく悪い	1	
命令の不明確・誤り	1	
障害物を通過しなかった (1 箇所ごとに減点)	1	
操法実施要領違反 (1 箇所ごとに減点)	1	
合 計		

持 点	動作基準	1 0 0 点
	タ イ ム	1 0 0 点 (基準タイム 5 5 秒… 1 秒オーバに対し 2 点減点)

第 1 計時 () 秒

平均計時 秒

第 2 計時 () 秒

小型ポンプ審査表

1 番 員	事業所名	
	審査員名	

減 点 項 目	減 点	計
筒先の背負い紐を右肩に掛けていない	1	
ホースを左肩に乗せて搬送していない	1	
筒先を結合、確認して「よし」の呼称をしなかった	1	
2番員がホースを結合して、姿勢を正す前に「放水始め」の合図をした	1	
余裕ホースをとる動作をしなかった	1	
放水時に、注水線から足がはみ出た	1	
ホースを搬送時、地面に落下させた	1	
ホースを足で引っ掛け、ホースが動いた	1	
放水時、筒先がホースから離脱した	2	
障害物を通過しなかった（1箇所ごとに減点）	1	
操法実施要領違反（1箇所ごとに減点）	1	
合 計		

小型ポンプ審査表

2 番 員	事業所名	
	審査員名	

減 点 項 目	減 点	計
放水口に結合する前に余裕ホースをとる動作をしなかった	1	
放水口にホースを結合、確認して「よし」の呼称をしなかった	1	
ホースを左肩に乗せて搬送していない	1	
ホースの結合部が、引きずりにより動いたり、ムシロよりはみ出た	1	
1番員から「放水始め」を受けた時、第3結合部より火点側に両足かかどが入っていなかった	1	
4番員に「放水始め」の伝達をするとき、両足かかどが伝達線内に入っていなかった	1	
ホースを搬送時、地面に落下させた	1	
ホースを足で引っ掛け、ホースが動いた	1	
ホースの結合部が、放水時に離脱した	2	
障害物を通過しなかった（1箇所ごとに減点）	1	
操法実施要領違反（1箇所ごとに減点）	1	
合 計		

小型ポンプ審査表

3 番 員	事業所名	
	審査員名	

減 点 項 目	減 点	計
吸水管を引きずって移動した	1	
4 番員の吸水管結合の補助をしなかった	1	
吸水管を水利に投入時「よし」の合図をしなかった	1	
シーートの掛けかたが著しく悪かった	1	
とび口を構えた時、注水線より足がでた	1	
ホースを足で引っ掛け、ホースが動いた	1	
障害物を通過しなかった（1箇所ごとに減点）	1	
操法実施要領違反（1箇所ごとに減点）	1	
合 計		

小型ポンプ審査表

4 番 員	事業所名	
	審査員名	

減 点 項 目	減 点	計
指揮者の操作始めで「よし」と合図しなかった	1	
吸水管をポンプ吸水口に結合した時、「よし」と合図しなかった	1	
吸水管を水利に移動するとき「よし」と合図しなかった	1	
エンジンの始動操作が悪い	1	
右手を真上に上げ、「放水始め」の復唱をしなかった	1	
筒先から水が出た時、ポンプ圧力が0.4MPa以上であった	3	
ホースを足で引っ掛け、ホースが動いた	1	
操法実施要領違反（1箇所ごとに減点）	1	
合 計		

消 火 栓 審 査 表

指 揮 者	事業所名	
	審査員名	

減 点 項 目	減 点	計
審査長に対し敬礼の不履行	1	
開始報告の誤り	1	
想定付与の誤り	1	
1 番員に先行して、第 2 結合部で 1 番員を監視しなかった (首を振る)	1	
命令の不明確、誤り	1	
操法実施要領違反 (1 箇所ごとに減点)	1	
合 計		

持 点	動作基準	1 0 0 点
	タ イ ム	1 0 0 点 (基準タイム 5 0 秒… 1 秒オーバに対し 2 点減点)

第 1 計時 () 秒

平均計時 秒

第 2 計時 () 秒

消 火 栓 審 査 表

1 番 員	事業所名	
	審査員名	

減 点 項 目	減 点	計
筒先の背負い紐を右肩に掛けていない	1	
ホースを左肩に乗せて搬送していない	1	
ホースを搬送時、地面に落下させた	1	
筒先を結合、確認して「よし」の呼称をしなかった	1	
2番員がホースを結合して、姿勢を正す前に「放水始め」の合図をした	1	
余裕ホースをとる動作をしなかった	1	
放水時に、注水線から足がはみ出た	1	
放水時、筒先がホースから離脱した	2	
ホースを足で引っ掛け、ホースが動いた	1	
操法実施要領違反（1箇所ごとに減点）	1	
合 計		

消 火 栓 審 査 表

2 番 員	事業所名	
	審査員名	

減 点 項 目	減 点	計
放水口に結合する前に余裕ホースをとる動作をしなかった	1	
放水口にホースを結合、確認して「よし」の呼称をしなかった	1	
ホース結合時、「よし」の呼称なし	1	
「放水始め」を受けたとき、第2結合部より火点側に両足かかとが入っていない	1	
3番員に「放水始め」の伝達をするとき、両足かかとが伝達線内に入っていなかった	1	
ホースの結合部が、放水時に離脱した	2	
ホースを足で引っ掛け、ホースが動いた	1	
操法実施要領違反（1箇所ごとに減点）	1	
合 計		

消 火 栓 審 査 表

3 番 員	事業所名	
	審査員名	

減 点 項 目	減 点	計
消火栓箱の扉を開けなかった	1	
1 番員にホースを渡さなかった	1	
2 番員の「放水始め」の伝達を、右手を上げて復唱しなかった	1	
放水口バルブを両手で操作していない	1	
ホースを足で引っ掛け、ホースが動いた	1	
操法実施要領違反（1箇所ごとに減点）	1	
合 計		

屋 内 消 火 栓 審 査 表

指 揮 者	事業所名	
	審査員名	

減 点 項 目	減 点	計
審査長への敬礼の不履行	1	
開始報告の誤り	1	
想定付与の誤り	1	
マスク等で口、鼻を確実に覆っていない	1	
手袋をしていない	1	
「放水始め」の呼称を第2障害物より火点側で受けていない	1	
「放水始め」の伝達が、第1障害物よりボックス側で伝達していなかった	1	
命令の不明確、誤り	1	
ホースを足で引っ掛け、ホースが動いた	1	
障害物を通過しなかった（1箇所ごとに減点）	1	
操法実施要領違反（1箇所ごとに減点）	1	
合 計		

持 点	動作基準	100点
	タ イ ム	100点（基準タイム55秒…1秒オーバに対し2点減点）

第1計時 () 秒

平均計時 秒

第2計時 () 秒

屋 内 消 火 栓 審 査 表

1 番 員	事業所名	
	審査員名	

減 点 項 目	減 点	計
マスク等で口、鼻を確実に覆っていない	1	
手袋をしていない	1	
余裕ホースを取る動作をしなかった	1	
放水時に、注水線から足がはみ出た	1	
ホースを足で引っ掛け、ホースが動いた	1	
障害物を通過しなかった（1箇所ごとに減点）	1	
操法実施要領違反（1箇所ごとに減点）	1	
合 計		

屋 内 消 火 栓 審 査 表

2 番 員	事業所名	
	審査員名	

減 点 項 目	減 点	計
マスク等で口、鼻を確実に覆っていない	1	
手袋をしていない	1	
指揮者の「放水始め」を復唱しない	1	
指揮者の「放水始め」前に、放水口バルブを開いた	2	
起動ボタンを操作しない	1	
操法実施要領違反（1箇所ごとに減点）	1	
合 計		

危険物初期消火審査表

審査員名	
------	--

事業所名		選手名	
------	--	-----	--

減 点 項 目		持ち点	減 点	計
1	指定した消火器を使用していない	1 5		
2	消火器の使用方法が適切でない	1 5		
3	器具愛護が著しく損なわれた	1 5		
4	「火事だ」の呼称をしなかった	1 5		
5	安全に対する配慮に欠けた	1 5		
6	再 燃	1 5		
7	指定された通路を通らなかった	1 0		
合 計				

基準タイム 2 0 秒	タイム得点 点
第 1 計時 秒 第 2 計時 秒	平 均 秒

操 作 得 点	タ イ ム 得 点	総 合 得 点
点	点	点

順 位 第 位